



当日は、地区内外から約80人が参加。橋田さんは、「尊良親王が義経以上の悲劇のヒーローになるまで研究を続けたい」と話していました。

蜷川で尊良親王シンポジウム

「蜷川の奥の仏が森には、むかし、タカナガシンノウという宮様がいた」。子どものころ、地元の人たちから話を聞いて興味を持った橋田栄澄さん（東京都在住）は、定年退職後、大学に入学して尊良親王の研究に取り組みました。その10年余りの研究成果を、11月25日に出身地・蜷川地区で開催された「尊良親王シンポジウム」で講演されました。

尊良親王は、1306（徳治元）年、後醍醐天皇の第1子として誕生。1331（元弘元年）、後醍醐天皇らが鎌倉幕府の倒幕に失敗（元弘の変）し、翌年3月、土佐に島流しにされました。3月下旬、黒

潮町上川口の王無の浜（当時の戻る浜）に上陸した親王は、有井川領主・有井庄司と奥湊川領主・大平弾正の二忠臣の護衛のもと、約1年間滞在。町内には、最初に仮御所を構えた奥湊川の小平弾正の屋敷や、米原の3番目の仮御所跡、有井庄司の墓など、親王ゆかりの文化財や伝説がいくつもあります。講演では、町内外の史跡の写真とともに、尊良親王の波乱に満ちた生涯が紹介されました。また、2番目の仮御所・仏が森の王野山御殿跡にある石段の調査記録など、現在調査中の貴重な資料もありました。橋田さんのお話を聞いて、尊良親王の存在がより現実的に身近なものと感じられました。

後半は、黒潮町の文化行政について金子富太教育次長が報告。最後の質疑では、多くの方から発言があり、尊良親王への関心の高さがうかがわれました。

シンポジウムを主催した蜷川地区の金子幹仁区長は、「今後も尊良親王をテーマに会を継続していきたい。また、王野山の文化財指定についても可能性を模索していきたい」と意欲を見せていました。



「大方ライオンズクラブ」

大方ライオンズクラブは、1967（昭和42）年5月に結成し、昨年45周年を迎えました。名前は「大方」とありますが、大方・佐賀両地区の22人が所属しています。「奉仕と友愛」をモットーに、青少年育成支援、町内イベント協賛、清掃活動などのボランティアに取り組んでいます。



写真上：秋のおもてなし一斉清掃（入野駅前）
下：2012若者交流会 | N黒潮町



また、これまでは高齢者の交流支援を行ってきましたが、昨年は趣向を変え、青年層を対象とした「若者交流会」を、11月25日にふるさと総合センターで開催。町内外から参加した男女41人が、黒潮町のクイズやカツオのたたきづくり体験などを通して交流しました。

同クラブの矢野博幸会長は、「黒潮町では、各種団体が町を盛り上げていきます。私たちのクラブも、人が元氣、町が元氣であるための活動に今後も取り組んでいきます。興味のある方はぜひご参加ください。」と話していました。

* 大方ライオンズクラブへのお問い合わせは、☎090-2634-8115（事務局 金子）までどうぞ。